

令和7年度 表彰者紹介・授賞理由

木村賞

朝井 健史（姫路市立手柄山温室植物園）

朝井健史氏は、手柄山温室植物園において、花壇や見本園、温室の維持管理や展示会の開催などに従事する一方、サギソウ栽培方法として通年開花技術の確立、繁殖生態の研究、新たな生育地の発見と保全など、サギソウに関する研究で顕著な業績を残してきた。また地域の学校教育や保全活動にも取り組み、園芸に関する教育普及活動やボランティアの育成にも尽力しており、植物園職員として、長年、模範的な活躍をしてきた。

以上の功績は特に優れたものであり、木村賞に値するものである。

植物園功労賞

高柳 重光（公益財団法人浜松市花みどり振興財団）

高柳重光氏は、浜松市花みどり振興財団の前身である浜松市フラワーパーク公社に入職以来、はままつフラワーパーク、はままつフルーツパークにおいて、40年以上にわたり、温室花卉の育成、花壇管理、樹木管理、果樹管理展示などの植物に関する業務のほか、植物園の運営業務、校外学びの教室担当として「花育」指導等、さまざまな形で植物園事業に尽力してきた。また、定年退職後も植物管理業務に加え、後進の指導にも力を入れている。

以上の功績は、植物園功労賞に値するものである。

綾部 充（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）

綾部充氏は、20年以上にわたり、東京大学大学院理学系研究科附属植物園の日光分園および小石川本園において植物の育成栽培に尽力してきた。日光分園ではロックガーデンを中心とした園内植栽管理に携わり、特に日光分園が日本植物園協会植物多様性保全拠点園に認定されてからは、植物園周辺地域の市民の協力を得ながら絶滅危惧植物の種子採集等を進めるなど、地域の植物保護・保全活動に積極的に関わり、栽培方法が確立していない植物の栽培・増殖の実現と種子保存活動、日光地区の植物種の調査協力も行なってきた。

以上の功績は、植物園功労賞に値するものである

坂崎奨励賞

佐藤 裕之（一般財団法人沖縄美ら島財団）

佐藤裕之氏は、沖縄美ら島財団植物研究室に着任以来、琉球の絶滅危惧植物の生息域外保全や野生復帰技術開発に関する調査研究、沖縄産野生植物を活用した花卉園芸品種作出に関する調査研究等を行なうとともに、作出した花卉類の品種登録により、種の保全と産業振興を両立させるなど地域の発展に貢献してきた。さらに沖縄県事業での培養技術を応用した熱帯果樹等の苗増殖の実務担当、環境省が進める生息域外保全事業の実務担当として尽力し、学会発表や講演等でその成果を公表するなど普及啓発にも積極的に取り組み、今後のさらなる活躍が期待される。

以上の功績は、坂崎奨励賞に値するものである。

久保 晴盛（広島市植物公園）

久保晴盛氏は、広島市植物公園において、樹木の導入・管理・展示企画・イベントの開催などの植物園管理業務を担当するとともに、植物全般に関する幅広い知識、専門であるコケ植物に関する知識を活かし、論文発表、学術雑誌等での報告、絶滅危惧種等の調査研究活動等を行なってきた。また、テレビ、新聞などのメディア取材に広報担当者として数多く対応し、植物園事業への一般の理解を深める活動に取り組んでいる。豊かな専門性と、それを土台とした普及事業等における活躍は、植物園の職員として模範となるものであり、将来にわたる植物園のけん引役としてさらなる活躍が期待される。

以上の功績は、坂崎奨励賞に値するものである。

保全・栽培技術賞

「宮古島のホソバフジボグサの保全に関する研究」

一般財団法人沖縄美ら島財団 佐藤裕之、阿部篤志

宮古島市 佐藤宣子

一般財団法人自然環境研究センター 梅本巴菜

マメ科植物ホソバフジボグサは、日本国内でごく少数の個体のみが確認されていて、国内希少野生動植物種に指定されている。本研究グループは、生息域外保全に向けた育成技術の構築および野生復帰の技術開発を目的とした研究を実施し成果を公表している。

以上の功績は、保全・栽培技術賞に値するものである。

- ・宮古島産ホソバフジボグサの生息域外保全における育成気温と施肥量の検討（日本植物園協会誌 56：50-55 に発表）
- ・宮古島におけるホソバフジボグサの野生復帰に向けた手法、時期の検討（日本植物園協会第 59 回大会〈2024 年水戸〉研究発表会：口頭発表）